

理容師学科

科目名	関係法規	学科名	理容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	原崎 房代	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	理容師になるうという人に必要な関係法規・制度について学び、国家試験に合格しうる法的知識を修得することを目的とする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 理容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 理容師法関係法令集 ワークブック		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	関係法規ガイダンス	人と社会生活に何故、ルールが必要なのかを学ぶ
第2回目	法制度の概要	法の特徴・形式を学び法治主義の意味と 公衆衛生の重要性を理解する
第3回目	衛生法規・制度の概要	衛生法規が具体的にどう運用されているかを理解する
第4回目	衛生法規の概要と美容師法	衛生行政の分類と理容師法の詳細を学ぶ
第5回目	人と施設に関する規定	理容師法の具体的内容を学習する
第6回目	行政処分と罰則	理容師法の違反例とそのペナルティを知る
第7回目	関連法規	理容業界に関連する様々な法制度を知る
第8回目	国家試験対策①	国家試験合格に向けた練習問題①
第9回目	国家試験対策②	国家試験合格に向けた練習問題②
第10回目	国家試験対策③	国家試験合格に向けた練習問題③
第11回目	法制度関係の復習	復習プリント①を使用して学習
第12回目	衛生行政関係の復習	復習プリント②を使用して学習
第13回目	関連法規の復習	関連法規のまとめプリントを使用して学習
第14回目	国家試験対策④	国家試験合格に向けた練習問題④
第15回目	国家試験対策⑤	国家試験合格に向けた練習問題⑤

科目名	衛生管理	学科名	理容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	三輪 明	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	美容師は多くの人と接する職業であることから、美容業務上で必要不可欠な衛生知識【公衆衛生・予防保健・環境衛生・感染症】を身に付けることで公衆衛生の向上を図る。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 理容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 衛生管理		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	公衆衛生の概要①	公衆衛生の意義と課題
第2回目	公衆衛生の概要②	公衆衛生発展の歴史
第3回目	公衆衛生の概要③	保健所と理容美容業
第4回目	保健①	母子保健
第5回目	保健②	成人・高齢者保健
第6回目	感染症の総論①	人と感染症
第7回目	感染症の総論②	感染症の歴史と法律
第8回目	感染症の総論③	感染症の分類
第9回目	感染症の総論④	微生物の種類
第10回目	感染症の総論⑤	微生物の構造・増殖と環境の影響
第11回目	感染症の総論⑥	微生物の病原性と人体の感受性
第12回目	感染症の総論⑦	汚染・感染・発病
第13回目	感染症の総論⑧	免疫と予防接種・感染予防の3原則
第14回目	感染症の各論①	理容・美容と感染症
第15回目	感染症の各論②	主な感染症

科目名	衛生管理	学科名	理容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	三輪 明	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	サロン施設と設備の法に基づく規則など基本知識と予防接種・消毒法・衛生管理を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 理容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 衛生管理		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	1年の復習	1年次の学習内容の復習
第2回目	病原体の分類	法律上の分類 感染経路による分類
第3回目	予防接種	定期の予防接種 任意の予防接種 ワクチンの種類
第4回目	感染症予防	感染症予防の3原則について
第5回目	感染症各論①	結核 ジフテリア インフルエンザ
第6回目	感染症各論②	麻疹 百日咳 風疹 急性灰白髄炎(ポリオ)
第7回目	感染症各論③	コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症(O-157)
第8回目	感染症各論④	B型肝炎 C型肝炎 後天性免疫不全症候群(エイズ) 梅毒
第9回目	感染症各論⑤	ラッサ熱 ペスト
第10回目	消毒法	美容師法施行規則で規定されている消毒法
第11回目	理学的消毒法	紫外線消毒 煮沸消毒 蒸気消毒
第12回目	化学的消毒法①	消毒用エタノール 次亜塩素酸ナトリウム
第13回目	化学的消毒法②	逆性石鹼 両性界面活性剤 グルコン酸クロルヘキシジン
第14回目	消毒薬の濃度計算	消毒薬の希釈方法 濃度計算の仕方
第15回目	まとめ	期末試験に向けてのまとめ
第16回目	前期の復習	前期の復習
第17回目	国家試験対策①	国家試験合格に向けた練習問題①②
第18回目	国家試験対策②	国家試験合格に向けた練習問題③④
第19回目	国家試験対策③	国家試験合格に向けた練習問題⑤⑥
第20回目	国家試験対策④	国家試験合格に向けた練習問題⑦⑧
第21回目	国家試験対策⑤	国家試験合格に向けた練習問題⑨⑩
第22回目	国家試験対策⑥	国家試験合格に向けた練習問題⑪⑫
第23回目	国家試験対策⑦	国家試験合格に向けた練習問題⑬⑭
第24回目	国家試験対策⑧	国家試験合格に向けた練習問題⑮⑯
第25回目	国家試験対策⑨	国家試験合格に向けた練習問題⑰⑱
第26回目	国家試験対策⑩	国家試験合格に向けた練習問題⑲⑳
第27回目	国家試験対策⑪	国家試験合格に向けた練習問題㉑㉒
第28回目	国家試験対策⑫	国家試験合格に向けた練習問題㉓㉔
第29回目	国家試験対策⑬	国家試験合格に向けた練習問題㉕㉖
第30回目	国家試験対策⑭	国家試験合格に向けた練習問題㉗㉘

科目名	保健	学科名	理容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	三輪 明	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	理容師として必要な基礎的な人体の構造や仕組みについて学ぶ。 頭部や顔面をメインに業務に携わる理容技術者として必要な解剖学の基礎知識を理解することを目標とする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 理容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 保健		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	はじめに	概要
第2回目	頭部、顔部、頸部	人体各部の名称
第3回目	骨格器系①	骨の種類と構造
第4回目	骨格器系②	骨の連結とそのはたらき
第5回目	筋系①	筋の種類とその特徴
第6回目	筋系②	表情筋とそのはたらき
第7回目	神経系①	神経系の成り立ち
第8回目	神経系②	中枢神経と抹消神経
第9回目	感覚器系①	視覚・聴覚
第10回目	感覚器系②	平衡感覚・味覚
第11回目	感覚器系③	嗅覚・皮膚感覚
第12回目	血液・循環器系①	血液のあらまし
第13回目	血液・循環器系②	血液循環の仕組みと経路
第14回目	血液・循環器系③	心臓と血管・リンパ管
第15回目	呼吸器系①	呼吸器系と気道
第16回目	呼吸器系②	肺の仕組みとガス交換
第17回目	消化器系①	消化器系の仕組み
第18回目	消化器系②	消化管のはたらき
第19回目	消化器系③	消化と物質代謝
第20回目	人体の構造復習①	確認テスト
第21回目	人体の構造復習②	まとめと確認テスト
第22回目	皮膚の構造①	皮膚の表面・断面
第23回目	皮膚の構造②	表皮・真皮
第24回目	皮膚の構造③	皮下組織・皮膚の部位差
第25回目	皮膚付属器官の構造①	毛
第26回目	皮膚付属器官の構造②	脂腺
第27回目	皮膚付属器官の構造③	汗腺・爪
第28回目	皮膚の循環器系と神経①	皮膚の血管
第29回目	皮膚の循環器系と神経②	リンパ管と皮膚の神経
第30回目	皮膚の構造復習	まとめ

科目名	保健	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	三輪 明	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	毛髪・爪、皮膚科学及び人体構造・機能をよく理解し、疾患予防など、保健に必要な手当てを施せるように学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 美容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 保健		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	1年の復習	1年次の学習内容の復習
第2回目	内分泌器系①	脳下垂体 甲状腺 上皮小体
第3回目	内分泌器系②	膵臓 副腎 精巣 卵巣
第4回目	環境と生体	生理的適応 免疫的適応
第5回目	皮膚の構造①	表皮 真皮 皮下組織
第6回目	皮膚の構造②	表皮 真皮 皮下組織
第7回目	皮膚付属器官の構造①	毛 脂腺 汗腺 爪
第8回目	皮膚付属器官の構造②	毛 脂腺 汗腺 爪
第9回目	皮膚付属器官の生理機能①	対外保護作用 体温調節作用
第10回目	皮膚付属器官の生理機能②	知覚作用 分泌排泄作用 吸収作用
第11回目	皮膚付属器官の生理機能③	貯蔵作用 免疫 解毒 排泄作用 ビタミンD形成
第12回目	皮膚と皮膚付属器官の疾患①	発疹 接触皮膚炎 蕁麻疹 熱傷
第13回目	皮膚と皮膚付属器官の疾患②	化膿菌 ウィルスによる皮膚疾患
第14回目	皮膚と皮膚付属器官の疾患③	真菌 衛生害虫による皮膚疾患
第15回目	まとめ	期末試験に向けてのまとめ
第16回目	前期の復習	前期の復習
第17回目	国家試験対策①	国家試験合格に向けた練習問題①②
第18回目	国家試験対策②	国家試験合格に向けた練習問題③④
第19回目	国家試験対策③	国家試験合格に向けた練習問題⑤⑥
第20回目	国家試験対策④	国家試験合格に向けた練習問題⑦⑧
第21回目	国家試験対策⑤	国家試験合格に向けた練習問題⑨⑩
第22回目	国家試験対策⑥	国家試験合格に向けた練習問題⑪⑫
第23回目	国家試験対策⑦	国家試験合格に向けた練習問題⑬⑭
第24回目	国家試験対策⑧	国家試験合格に向けた練習問題⑮⑯
第25回目	国家試験対策⑨	国家試験合格に向けた練習問題⑰⑱
第26回目	国家試験対策⑩	国家試験合格に向けた練習問題⑲⑳
第27回目	国家試験対策⑪	国家試験合格に向けた練習問題㉑㉒
第28回目	国家試験対策⑫	国家試験合格に向けた練習問題㉓㉔
第29回目	国家試験対策⑬	国家試験合格に向けた練習問題㉕㉖
第30回目	国家試験対策⑭	国家試験合格に向けた練習問題㉗㉘

科目名	化粧品化学	学科名	理容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	井上 彰宏	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	化粧品の品質の特性や規則などを学び、取り扱いと安全性を良く理解し様々な基礎化粧品などの構造と色材、使用方法を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 理容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 化粧品化学		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	化粧品概論①	化粧品の社会的意義と品質特性
第2回目	化粧品概論②	化粧品の規制
第3回目	化粧品概論③	化粧品の安定性と取り扱い上の注意
第4回目	化粧品概論④	化粧品と安全性
第5回目	化粧品用原料①	化粧品の対象となる人体各部の性状
第6回目	化粧品用原料②	水性原料、油性原料
第7回目	化粧品用原料③	界面活性剤、高分子化合物
第8回目	化粧品用原料④	色材、香料
第9回目	化粧品用原料⑤	その他の配合成分、ネイル・マツエク用材料
第10回目	基礎化粧品①	皮膚清掃用化粧品、化粧水
第11回目	基礎化粧品②	クリーム・乳液、その他の基礎化粧品
第12回目	メイクアップ用化粧品①	メイクアップ用化粧品の種類と剤形
第13回目	メイクアップ用化粧品②	ポイントメイクアップ化粧品
第14回目	頭皮・毛髪用化粧品①	シャンプー剤、スタイリング剤
第15回目	頭皮・毛髪用化粧品②	パーマ剤
第16回目	頭皮・毛髪用化粧品③	ヘアカラー剤
第17回目	頭皮・毛髪用化粧品④	育毛剤
第18回目	芳香製品と特殊化粧品①	芳香製品、特殊化粧品
第19回目	付録①	付録1～7
第20回目	付録②	付録8～13
第21回目	付録③	付録14～20
第22回目	国家試験対策①	国家試験合格に向けた練習問題①②
第23回目	国家試験対策②	国家試験合格に向けた練習問題③④
第24回目	国家試験対策③	国家試験合格に向けた練習問題⑤⑥
第25回目	国家試験対策④	国家試験合格に向けた練習問題⑦⑧
第26回目	国家試験対策⑤	国家試験合格に向けた練習問題⑨⑩
第27回目	国家試験対策⑥	国家試験合格に向けた練習問題⑪⑫
第28回目	国家試験対策⑦	国家試験合格に向けた練習問題⑬⑭
第29回目	国家試験対策⑧	国家試験合格に向けた練習問題⑮⑯
第30回目	国家試験対策⑨	国家試験合格に向けた練習問題⑰⑱

科目名	文化論	学科名	理容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	篠崎 恵里	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	美容に携わる者として我が国における美容の歴史と文化の形成について考えることを目標とする。また主に髪型・服装等の視点から日本の文化、歴史の理解を深める。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 理容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容文化論		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	総論	理容文化の概要
第3回目～第4回目	日本の理容業の歴史①	理容業・美容業の発生
第5回目～第6回目	日本の理容業の歴史②	江戸時代の理容業・美容業
第7回目～第8回目	日本の理容業の歴史③	現代の理容美容・日本髪①
第9回目～第10回目	ファッション文化史 日本編①	縄文・弥生・古墳時代、古代、中世
第11回目～第12回目	ファッション文化史 日本編②	近世Ⅰ、近世Ⅱ
第13回目～第14回目	ファッション文化史 日本編③	近代、現代Ⅰ、現代Ⅱ
第15回目～第16回目	ファッション文化史 日本編④	現代Ⅲ、現代Ⅳ
第17回目～第18回目	ファッション文化史 西洋編①	古代エジプト、ギリシャ、ローマ、ゲルマン
第19回目～第20回目	ファッション文化史 西洋編②	中世ヨーロッパ、近世Ⅰ、近世Ⅱ
第21回目～第22回目	ファッション文化史 西洋編③	近世Ⅲ、近代Ⅰ、近代Ⅱ
第23回目～第24回目	ファッション文化史 西洋編④	現代Ⅰ、現代Ⅱ、現代Ⅲ、
第25回目～第26回目	ファッション文化史 西洋編⑤	現代Ⅳ、現代Ⅴ、現代Ⅵ、現代Ⅶ
第27回目～第28回目	礼装の種類②	和装の礼装
第29回目～第30回目	礼装の種類③	洋装の礼装

科目名	理容技術理論	学科名	理容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2通
授業時数	150時間	単位数	5単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	秋山 美絵	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	I.技術実習と並行して技術基礎、特殊技術から機械器具の種類・特徴・目的など使用上の注意点を学ぶ。 II.理容にたずさわる手技、ヘアデザイン・ヘアカット・ヘアセット・パーマセット・ヘアカラーリング シェービング・エステ・クリニック・シャンプー&リンス・マッサージ・トリートメント・スカルプトリートメント の基礎を施術と並行して学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 理容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容技術理論1・理容技術理論2		
成績評価の方法 ・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目 第4回目～第5回目	理容技術の基礎	理容理論を学ぶにあたって・理容技術 人体各部の名称・技術姿勢・トレーニング方法
第6回目～第8回目 第9回目～第10回目	理容用具	理容と用具・用具と衛生・刃物 理容道具(シザース・レザー・クリッパーなど)
第11回目～第13回目 第14回目～第15回目	ヘアデザイン	ヘアスタイリングとデザイン デザインの要素・ヘアスタイル
第16回目～第18回目 第19回目～第20回目	ヘアカット	観測法・カットの基礎原理と一般的手順 スタンダードヘア・デザインヘア・レディースカット
第21回目～第23回目 第24回目～第25回目	ヘアセット	ヘアセットの種類・実際 レディースヘアのスタイリング
第26回目～第28回目 第29回目～第30回目	パーマ	ワインディング・コールド二浴式ウェーブの一例 アイアニング・形状記憶デジタルパーマ
第31回目～第33回目 第34回目～第35回目	ヘアカラー	色彩の原理・染毛剤の種類と原理、安全性 ヘアカラーリング技術のプロセス
第36回目～第38回目 第39回目～第40回目	シェービング	シェービングの要件、種類、基本技術、プロセス メンズフェイス、ネックシェービング
第41回目～第43回目 第44回目～第45回目	理容エステティック	スキン・フェイシャル・ハンド・フットケア アロマセラピー
第46回目～第48回目 第49回目～第50回目	理容クリニック	ヘアクリニック・毛髪の基礎知識 頭皮の基礎知識
第51回目～第53回目 第54回目～第55回目	シャンプー リンス	シャンプーの方法・技法 リンス
第56回目～第58回目 第59回目～第60回目	理容マッサージ	マッサージの意義と効果・マニピュレーション ヘッドマッサージ・クリニックマッサージ
第61回目～第63回目 第64回目～第65回目	ヘアトリートメント	ヘアトリートメントの種類と一例① ヘアトリートメントの種類と一例②
第66回目～第68回目 第69回目～第70回目	スカルプ トリートメント	スカルプトリートメントの種類と一例① スカルプトリートメントの種類と一例②
第71回目～第73回目 第74回目～第75回目	国家試験対策	国家試験の合格に向けた問題演習① 国家試験の合格に向けた問題演習②

科目名	運営管理	学科名	理容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	原崎 房代	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	これから就職して、自分が独立をしてからサロンを運営して行く時に必要な要素「接客業務そして経営戦略・マーケティング」その後に様々な管理「経営管理・労務管理・健康管理」などの知識が必要になる。スタイリストから経営者になって美容業をして行く中で経営者としての知識・視点・考え方を学び、合わせてわかりやすく解説していく。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 理容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 日本理容美容教育センター 運営管理		
成績評価の方法・基準	授業態度・平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	接客① 接客②	現場が求める人、よい社会人であるために お客さまを考える、お客さまに接する
第2回目	接客③ 接客④	接客とは何か、よい接客を考える よい接客者の基本的要素、接客者の心構え
第3回目	接客⑤ 接客⑥	計画の必要性、接客の環境づくり・範囲 接客の流れとポイント①②③④
第4回目	接客⑦ 接客⑧	接客にかかわるトラブル・事故 接客で発生が予想される問題①②・対処
第5回目	経営戦略・マーケティング① 経営戦略・マーケティング②	お客さまに選んでもらうこと、選ばれる難しさ 経営戦略の基礎①②、経営者としての感覚を養う
第6回目	経営戦略・マーケティング③ 経営戦略・マーケティング④	競争の現状・知識、マーケティング・価値つくる・実態 満足な姿、価値を形にしてい、マーケティングミックス
第7回目	経営戦略・マーケティング⑤ 経営戦略・マーケティング⑥	価値の役割、インターフェイス、情報発信、対話 物的要因、インターネット、システム化、海外の美容
第8回目	経営管理① 経営管理②	経営の視点、利益、考え方、立場、難しさ 経営の形態、お金の管理、収支と損益
第9回目	経営管理③ 経営管理④	会計の考え方、コスト管理 税金について、経営者の視点から～まとめ～
第10回目	労務管理① 労務管理②	人という資源の特徴、能力、やる気 給料、待遇、福利厚生
第11回目	労務管理③ 労務管理④	働くものの権利、就業規則、労働規約 キャリアプラン重要性、義務、自己管理
第12回目	健康管理① 健康管理②	健康の大切さ、仕組み、健康診断の歴史 健康診断の限界、美容所の特性
第13回目	健康管理③ 健康管理④	健康に影響を及ぼす様々な危険、作業と体調 生活習慣病、予防と治療
第14回目	健康管理⑤ 健康管理⑥	こころの問題、アレルギーについて 指や手荒れ、足のむくみ、腰痛
第15回目	健康管理⑦ 健康管理⑧	膀胱に違和感、食事のリズム 環境と健康、採光、換気、温度・湿度

科目名	理容実習	学科名	理容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1前
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	関根 孝明	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンダードヘア・デザインヘア・ヘアセットイング・パーマネットウェーピング アイアニング・ヘアカラーリングば基礎技術を習得する。 ・理容師国家試験合格にむけての基礎実技を習得し、サロンワークテクニックに対応できる為の実践技術を学ぶ。 		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 理容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 理容師美容師試験研修センター 理容師実技試験 技術の解説 公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容実習 1		
成績評価の方法 ・基準	理容実習の出席率及び受講態度、学期末試験成績		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第8回目	スタンダードヘア①	基本姿勢・姿勢の変化
第9回目 ～ 第16回目	スタンダードヘア②	スタンダードヘアカットの用具の持ち方と操作
第17回目 ～ 第24回目	スタンダードヘア③	ミディアムヘア・ブロー
第25回目 ～ 第32回目	デザインヘア①	デザインカットの用具の持ち方と操作 ブロッキング
第33回目 ～ 第40回目	デザインヘア②	デザインカットの基本パターン デザインカットの基礎技術・デザインカット
第41回目 ～ 第48回目	デザインヘア③	ストロークカット・チョップカット・レーザーカット
第49回目 ～ 第56回目	ヘアセットイング①	基本セット
第57回目 ～ 第64回目	ヘアセットイング②	ドライヤーセット
第65回目 ～ 第72回目	パーマネット ウェーピング①	アップシステム・ダウンシステム システムによる仕上がりの違い・良い例、悪い例
第73回目 ～ 第80回目	パーマネット ウェーピング②	特殊ロッドによるワインディング スタイル別ロッド配列・プロセスにおける注意点
第81回目 ～ 第88回目	アイアニング①	持ち方と技法①
第89回目 ～ 第96回目	アイアニング②	持ち方と技法②
第97回目 ～ 第104回目	アイアニング③	アイアニングの手順
第105回目 ～ 第112回目	ヘアカラーリング①	白髪染め・おしゃれ染め・フロステイング
第113回目 ～ 第120回目	ヘアカラーリング②	ティップニング・ストリーキング フロントグラデーション

科目名	理容実習	学科名	理容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1後
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	関根 孝明	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・シェービング・ハンドケア・フットケア・ヘアクリニック・シャンプー・イング&リンシング ・ヘッドマッサージ・クリニックマッサージの基礎技術を習得する。 ・理容師国家試験合格にむけての基礎実技を習得し、サロンワークテクニックに対応できる為の実践技術を学ぶ。 		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 理容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 理容師美容師試験研修センター 理容師実技試験 技術の解説 公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容実習 2		
成績評価の方法 ・基準	理容実習の出席率及び受講態度、学期末試験成績		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第8回目	シェービング①	シェービングの基本技術と要領
第9回目 ～ 第16回目	シェービング②	メンズフェイスシェービング
第17回目 ～ 第24回目	シェービング③	メンズネックシェービング
第25回目 ～ 第32回目	シェービング④	フェイシャルシェービング
第33回目 ～ 第40回目	シェービング⑤	レディースシェービング
第41回目 ～ 第48回目	シェービング⑥	スキンケア
第49回目 ～ 第56回目	ハンドケア	ネイルケア・ハンド&アームマッサージ
第57回目 ～ 第64回目	フットケア	フットケア
第65回目 ～ 第72回目	ヘアクリニック	ヘア&スカルプチェック ヘアトリートメント
第73回目 ～ 第80回目	シャンプー・イング& リンシング	スタンドシャンプー バックシャンプー
第81回目 ～ 第88回目	ヘッドマッサージ	ヘッドマッサージ
第89回目 ～ 第96回目	クリニックマッサージ	クリニックマッサージ
第97回目 ～ 第104回目	国家試験対策①	国家試験実技シミュレーション①
第105回目 ～ 第112回目	国家試験対策②	国家試験実技シミュレーション②
第113回目 ～ 第120回目	国家試験対策③	国家試験実技シミュレーション③

科目名	理容実習	学科名	理容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2前
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	関根 孝明	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	・理容師国家試験合格にむけての基礎実技を習得し、サロンワークテクニックに対応できる為の実践技術を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 理容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 理容師美容師試験研修センター 理容師実技試験 技術の解説 公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容技術理論 1・理容技術理論2		
成績評価の方法 ・基準	理容実習の履修時間、日常の受講態度、学期末試験成績		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第8回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 30分 ②全頭構成 タイム計測 35分 ③全頭構成、タイム計測 25分
第9回目～第16回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 30分 ②全頭構成 タイム計測 35分 ③全頭構成、タイム計測 25分
第17回目～第24回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 30分 ②全頭構成 タイム計測 35分 ③全頭構成、タイム計測 25分
第25回目～第32回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 30分 ②全頭構成 タイム計測 35分 ③全頭構成、タイム計測 25分
第33回目～第40回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②全頭構成 タイム計測 30分 ③全頭構成、タイム計測 20分
第41回目～第48回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②全頭構成 タイム計測 30分 ③全頭構成、タイム計測 20分
第49回目～第56回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②全頭構成 タイム計測 30分 ③全頭構成、タイム計測 20分
第57回目～第64回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 25分 ②全頭構成 タイム計測 30分 ③全頭構成、タイム計測 20分
第65回目～第72回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 15分
第73回目～第80回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 15分
第81回目～第88回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 15分
第89回目～第96回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 15分
第97回目～第104回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 15分
第105回目～第112回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 15分
第113回目～第120回目	①ワインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 15分

科目名	理容実習	学科名	理容師学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	180時間	単位数	6単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	関根 孝明	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	・理容師国家試験合格にむけての基礎実技を習得し、サロンワークテクニックに対応できる為の実践技術を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	厚生労働大臣認定 理容師国家資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 理容師美容師試験研修センター 理容師実技試験 技術の解説 公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容技術理論 1・理容技術理論2		
成績評価の方法 ・基準	理容実習の履修時間、日常の受講態度、学期末試験成績		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第6回目	①フインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 15分
第7回目～第12回目	①フインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 15分
第13回目～第18回目	①フインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 15分
第19回目～第24回目	①フインディング ②ミディアムカット ③シェービング	①全頭構成、タイム計測 20分 ②全頭構成 タイム計測 25分 ③全頭構成、タイム計測 15分
第25回目～第30回目	国家試験対策①	試験課題 ミディアムカットタイム20分 センシング5分 シェービング15分 整髪5分 衛生確認
第31回目～第36回目	国家試験対策②	試験課題 ミディアムカットタイム20分 センシング5分 シェービング15分 整髪5分 衛生確認
第37回目～第42回目	国家試験対策③	試験課題 ミディアムカットタイム20分 センシング5分 シェービング15分 整髪5分 衛生確認
第43回目～第48回目	国家試験対策④	試験課題 ミディアムカットタイム20分 センシング5分 シェービング15分 整髪5分 衛生確認
第49回目～第54回目	国家試験対策⑤	試験課題 ミディアムカットタイム20分 センシング5分 シェービング15分 整髪5分 衛生確認
第55回目～第60回目	国家試験対策⑥	試験課題 ミディアムカットタイム20分 センシング5分 シェービング15分 整髪5分 衛生確認
第61回目～第66回目	国家試験対策⑦	試験課題 ミディアムカットタイム20分 センシング5分 シェービング15分 整髪5分 衛生確認
第67回目～第72回目	国家試験対策⑧	試験課題 ミディアムカットタイム20分 センシング5分 シェービング15分 整髪5分 衛生確認
第73回目～第78回目	国家試験対策⑨	試験課題 ミディアムカットタイム20分 センシング5分 シェービング15分 整髪5分 衛生確認
第79回目～第84回目	国家試験対策⑩	試験課題 ミディアムカットタイム20分 センシング5分 シェービング15分 整髪5分 衛生確認
第85回目～第90回目	国家試験対策⑪	試験課題 ミディアムカットタイム20分 センシング5分 シェービング15分 整髪5分 衛生確認

科目名	総合理容技術	学科名	理容師学科
分類	選択必修	配当年次・学期	2.通
授業時数	270時間	単位数	9単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	志田 達也	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	・理容実習及び理容技術理論を基に、サロンワークに対応できる実践基礎技術を学ぶ。 【ヘカッティング・パーマ・カラー・シェービング・シャンプー・ブロー・ヘアセットなど】		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	理容技術者として理容技術及び知識を、サロンワークで実践できることを目標とする		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 理容師美容師試験研修センター 理容師実技試験 技術の解説 公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容技術理論1 理容技術理論2		
成績評価の方法 ・基準	美容実習の履修時間、日常の受講態度、学期末試験成績		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第9回目	サロン実践①	サロンワーク基礎(挨拶・マナー)
第10回目 ～ 第18回目	サロン実践②	サロンワーク基礎(ウェット・シャンプー)
第19回目 ～ 第27回目	サロン実践③	サロンワーク基礎(セカンドシャンプー)
第28回目 ～ 第36回目	サロン実践④	サロンワーク基礎(セット面での接客)
第37回目 ～ 第45回目	サロン実践⑤	サロンワーク基礎(カウンセリング)
第46回目 ～ 第54回目	サロン実践⑥	サロンワーク基礎(カッティング)
第55回目 ～ 第63回目	サロン実践⑦	サロンワーク基礎(パーマテクニック)
第64回目 ～ 第72回目	サロン実践⑧	サロンワーク基礎(ヘアカラーリング)
第73回目 ～ 第81回目	サロン実践⑨	サロンワーク基礎(ブロー)
第82回目 ～ 第90回目	サロン実践⑩	サロンワーク応用(ヘアセットイング)
第91回目 ～ 第99回目	サロン実践⑪	サロンワーク応用(パーマアラカルト)
第100回目 ～ 第108回目	サロン実践⑫	サロンワーク応用(カラーアラカルト)
第109回目 ～ 第117回目	サロン実践⑬	サロンワーク応用(カット・刈上げ)
第118回目 ～ 第126回目	サロン実践⑭	サロンワーク応用(オリジナル)①
第127回目 ～ 第135回目	サロン実践⑮	サロンワーク応用(オリジナル)②

科目名	総合ビューティ技術	学科名	理容師学科
分類	選択必修	配当年次・学期	1通
授業時数	210時間	単位数	7単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	秋山 美絵	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	<p>・美容実習及び美容技術理論を基に、サロンワークに対応できる実践基礎技術を学ぶ。 【エステティック・マッサージ・ヘアカッティング・パーマ・カラー・シャンプー・ブロー・ヘアセットなど】</p>		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	美容技術者としてビューティ技術のスキルアップ及び知識の向上を目標とする		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	公益社団法人 理容師美容師試験研修センター 理容師実技試験 技術の解説 公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容技術理論1 理容技術理論2		
成績評価の方法 ・基準	美容実習の履修時間、日常の受講態度、学期末試験成績		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第7回目	総合ビューティ①	エステティック基礎①
第8回目 ～ 第14回目	総合ビューティ②	エステティック基礎②
第15回目 ～ 第21回目	総合ビューティ③	エステティック基礎③
第22回目 ～ 第28回目	総合ビューティ④	スカルプマッサージ①
第29回目 ～ 第35回目	総合ビューティ⑤	スカルプマッサージ②
第36回目 ～ 第42回目	総合ビューティ⑥	スカルプマッサージ③
第43回目 ～ 第49回目	総合ビューティ⑦	総合ビューティ技術①
第50回目 ～ 第56回目	総合ビューティ⑧	総合ビューティ技術②
第57回目 ～ 第63回目	総合ビューティ⑨	総合ビューティ技術③
第64回目 ～ 第70回目	総合ビューティ⑩	総合ビューティ技術④
第71回目 ～ 第77回目	総合ビューティ⑪	総合ビューティ技術⑤
第78回目 ～ 第84回目	総合ビューティ⑫	総合ビューティ技術⑥
第85回目 ～ 第91回目	総合ビューティ⑬	総合ビューティ技術⑦
第92回目 ～ 第98回目	総合ビューティ⑭	総合ビューティ技術⑧
第99回目 ～ 第105回目	総合ビューティ⑮	総合ビューティ技術⑨

科目名	社会常識マナー	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木 彬	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	社会人として必要な基本的マナーを習得するためにサロンでの見だしなみ・言葉遣い・談話対応の仕方・接客・カウンセリングなど、実務に即した内容を、実際にロールプレイングして教科書を基に学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	社会人常識マナー検定2級・3級、経済記事読み方検定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	社会人常識検定テキスト、経済記事読み方検定テキスト		
成績評価の方法 ・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	サービススタッフの資質	必要とされる要件、従業要件
第3回目 ～ 第4回目	専門知識	サービス知識、従業知識
第5回目 ～ 第6回目	一般知識	社会常識
第7回目 ～ 第8回目	対人技能	人間関係、接遇知識、話し方、服装
第9回目 ～ 第10回目	実務技能	問題処理、環境整備、金品管理、社交業務
第11回目 ～ 第12回目	社会常識①	社会と知識
第13回目 ～ 第14回目	社会常識②	仕事と成果
第15回目 ～ 第16回目	社会常識③	一般知識、ビジネス計算
第17回目 ～ 第18回目	コミュニケーション①	ビジネスコミュニケーション
第19回目 ～ 第20回目	コミュニケーション②	社会人にふさわしい言葉遣い
第21回目 ～ 第22回目	コミュニケーション③	ビジネス文書の活用
第23回目 ～ 第24回目	ビジネスマナー①	職場のマナー
第25回目 ～ 第26回目	ビジネスマナー②	来客応対
第27回目 ～ 第28回目	ビジネスマナー③	電話応対
第29回目 ～ 第30回目	ビジネスマナー④	交際業務、文書類の受け取り

科目名	英会話	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	アリス・ラモーナ	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	英会話は情報の伝達手段として、インターネットでも幅広く使われ、多くの場面で国際的なコミュニケーションが必要になってきます。美容業に携わる人の活躍する場所も日本ばかりではなく海外へとステージが広がり、幅広く対応できる外国語が必要になっています。日常会話から美容業に関わる接客のコミュニケーションのとり方までを習得します。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	お客様と日常会話から美容業に関わる接客のコミュニケーションのとり方までを習得が目標。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	English for Aesthetic Salons (japan language system)		
成績評価の方法 ・基準	① 日常の受講態度 ② レポート提出		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	Welcome to Our Beauty Salon	サロンあいさつ・曜日・時計・予約の仕方
第2回目	Client Consultation	再来さま用カウンセリング
第3回目	Menu Introduction	メニューの勧め方
第4回目	Receiving Calls a Salon	サロンの電話受付
第5回目	Shampooing	シャンプーした時の会話のやりとり
第6回目	Getting a Haircut	ヘアカット 会話・カットの種類
第7回目	Color My Hair	ヘアカラー 会話・色選び
第8回目	Perming	パーマ 種類・会話
第9回目	Treatment	ヘアケアアドバイス
第10回目	Finishing Your Hair Style	仕上げ・会話・ヘアスタイリング剤
第11回目	Payment Numbers	お支払・数字
第12回目	Giving Directions	道のご案内
第13回目	How to e-mail	Eメールの書き方
第14回目	Job Interview	面接 ポイントアドバイス
第15回目	Review	復習・期末テストの準備

科目名	美容マネジメント	学科名	総合・国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	神戸 祐子	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	美容マネジメントは、サロンの営業活動を記録、計算、整理する技術であり、サロンの経営成績、財政状態を明らかに報告するものである。講義内容は、サロンを前提としたお金の流れを基に仕訳、勘定記入を通じて一巡の流れを学習する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本実務能力検定協会 美容会計検定試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容会計検定試験用テキスト		
成績評価の方法 ・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	美容会計の基本	美容会計の目的
第2回目	貸借対照表の役割	損益計算書の役割
第3回目	簿記一巡の流れⅠ①	仕訳の基礎
第4回目	簿記一巡の流れⅠ②	転記・計算表・総勘定元帳
第5回目	簿記一巡の流れⅡ①	試算表の作成
第6回目	簿記一巡の流れⅡ②	決算の手続き・精算表の作成
第7回目	現金・預金の処理	分記法
第8回目	その他の債権債務	債権債務
第9回目	固定資産	固定資産と減価償却
第10回目	収益と費用	収益と費用
第11回目	資本	個人企業の資本
第12回目	決算	決算整理とは
第13回目	会計	伝票会計
第14回目	特徴	サロン経営上の特徴
第15回目	検定対策	検定試験の合格へ向けた問題演習